

# 滋賀県精神保健 福祉協会だより

第5号  
**SHIGA**  
精神保健福祉協会  
1998.11.1

編集発行：滋賀県精神保健福祉協会  
事務局：滋賀県精神保健福祉協会  
〒525-0056 草津市南笠町深谷66  
滋賀県立精神保健総合センター一気付  
TEL077(567)5250 FAX077(567)5033



## つがやま荘で「本音でトーク」

### 出来ましたか？

山本恵子

待ち望んでいた第2回地域生活協力員交流会が守山のつがやま荘で開催されました。

第1回目は、消化不良ながら楽しく理念を学びました。今だに余韻や余映として、あの人やこの人の話を引摺りながら第2回目に参加させて頂きました。会場はアルコールのない結婚披露宴会場で、まず、滋賀県精神保健福祉協会副会長の田崎氏より、行政の努力と共に地域住民の思いやりで偏見を取り除く必要がある、と挨拶されました。尚、続いて美しさと凜とした空気が漂う中、泥々とした本音を出せるのかどうか、不安を感じながら5つのテー

ブルに分けてのグループワークが進行して行きました。自己紹介の後、精神保健ボランティアとして共同作業所やサロンで、又、生活ホームや社会復帰教室での日頃の体験談と一緒にその思いや疑問を素直に出し合う事が出来ました。それを要約出来るなら①行政や母体としての健康福祉センターに対しては、やる事や人がくるくる変わるあり方への不満や要望が一番多く話されました。②ボランティアに対しては、ボランティア間の考え方の違いについて、又、自分自身の悩みや、ボランティアとしてどう自分を育て、どう育ち合えばよいのか等、色々な思いが語られました。③病をもっておられる方や、家族に対しては、病そのものに対する戸惑いや疑問が出されました。ボランティアそれぞれのかかり方は10人10色であり、活動歴も考え方も違う為、発言内容は多様性に富んでいました。しかし健康福祉センターに対しては、ボランティアは行政の補完要員をさせられているのではないかと、主体的に活動出来る力量を備えた人も多くいるのだからそれが出来る場の提供を求める等、エネルギーあふれる発言がたくさんありました。短い時間でしたが同じテ



▲グループワーク風景

ブルに同席したボランティアの話聞きながらその体験を共有し自分の活動を思考出来たひとときでした。各テーブルから、まとめとして出された色々な疑問点に対しては、ゲスト各氏が組織論や建前を論ずる事なく、非常にしなやかなアドバイスをして下さり、ボランティアとしての今後の活動の方向性を各自がつかめたのではないのでしょうか？

さらに社協の山口氏より、ボランティアをやって来て良かったベスト3には、  
1、いい仲間が出来て人と人の繋がりが出来た事。  
2、福祉や精神保健の実態がよくわかった事。

3、国や自治体がその実態にもっと力を注がねばならない事がわかった事があげられているという話もあり、皆さん同感されたのではないのでしょうか。私が今回参加して得たものは、自分なりにようやく、やっと、精神保健ボ

ランティアとしての活動とは何かが具体的に理解出来た事でした。ボランティアを受ける側のゲストとして、吉澤さんより、援助を受けて良かったのは「サロン」と「通院の為の診察券入れ」との発言があり活動の原点を再認識する事も出来ました。

名刺のないボランティアの私にとって、精神障害者の問題は自分の生き方を問う学びとその喜びでもあります。教科書をなくした時代は浮遊し、くらしを営む既存のあらゆる組織は形骸化の傾向にある中で、病であってもなくても人と人と、どう触れ合って人間としてどう存在するのか？問い続ける事を忘れないでいたいと思っています。

「私らしく、あなたらしく…そのまままでええやんか」誰にも、本音でそう思える、たくさんのあの人達やこの人達と又、交流会でお会い出来ます様に…。「時には、本音でトーク」の開催に御尽力下さいました皆様様方、ありがとうございます。

看取女に 外を乞ふ心 小春の日

洋子

地域生活協力員交流会午前の部に  
参加して、私の言い残したこと。

どんな事を、ボランティアの方にしてほしいのか？

話をしなくても、一緒に同じ時間をすごして、そんななかで心がいやされていくと思います。「しんどいとき、そばにいてほしい」これが私の一番の希望です。

こころの会 吉澤鈴美

（\*こころの会は、心の病気を持つ人たちが集まり、悩み、苦しみ、喜びを話し合い、仲間同士が支え合う会です。吉澤さんはこのゲストとしてお招きし、その後、お手紙をいただきましたので、その内容の一部をご本人の了解を得てご紹介させていただきました。）

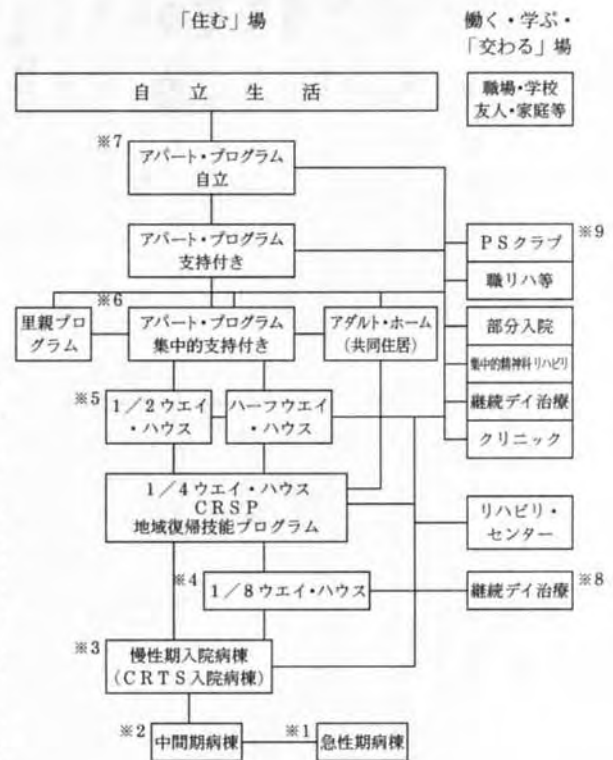
「アメリカにおける生活

講演会に参加して

こころの会 吉澤 鈴美

平成十年度の地域生活協力員交流会が十月十二日に「つがやま荘」で開かれました。午前中の精神保健ボランティア「本音でトーク」には当事者代表のコメントーターとして参加させていただきましたが今回は午後の部の講演会「アメリカにおける生活支援の現状」を聞いた感想を少し書かせていただきます。正直言いました私にとってはむ

サウスビーチ精神医療センター、  
C.R.T.S.の治療・リハビリシステム



ずかしい内容でした。当事者の人数からみてもアメリカと日本とはけた違いです。講師の遊佐安一郎先生の口からは英語がよく飛び出しました。二時間以上になった先生の講演そのものを聞くことで私のエネルギーを吸い込まれてしまったような気がしました。レ



▲遊佐安一郎 先生

ニューヨーク州立サウスビーチ精神医療センターの地域住居治療プログラム (CRTS) の説明。  
一九五〇年代には州立精神病院の入院患者数は3万人いたが、脱入院化運動で一九九〇年代には千人に減少した。  
図※1～※2の急性期治療では平均一週間～一ヶ月の入院。しかし4割が慢性患者として残ったため、一九七一年四〇〇床のサウスビーチ精神医療センターが設立された。その後一九七九年には地域住居治療サービス (CRTS) が誕生した。遊佐先生は図※3のCRTS入院病棟 (27床) を担当していた。  
図※4～※5はサウスビーチ医療センター内にある中間施設。1/8ないし1/2とは社会的自立の度合を示す。例えば1/8ウエイ・ハウスでは病院給食を利用できるなど。図※6～※7は地域でのアパートプログラム。各住居プログラムは図※8～※9の治療プログラムを受けることが出来る。

あとになって読み返してみてもいったいどういう意味なのかわからないことがいっぱいあります。ただ一つわかったことは、日本では入院、退院、外来通院（その中にデイケアや保健所の社会復帰教室などもふくまれます）のつながりで精神科の医療が行なわれているのに対して、アメリカでは入院の中でも急性期病棟、中間期病棟などにわかれ、そのあと四分の一ウエイハウス・ハーフウエイハウス、そしてアパート・プログラム、アダルトホームなどと実に細やかに生活支援、リハビリのプログラムがあるということです。日本に住んでいる私達にとっては、まるで別世界のように感じました。日本の精神科医療が少しでもアメリカの精神科医療に近づいていく事を願ってやみません。



## 伝言板

### 滋賀県地域婦人団体連合会創立50周年 財団法人滋賀県婦人会館設立40周年 記念大会

～びわ湖と共に輝く未来～

- 日時……平成10年11月3日(祝) 10時より
- 場所……大津市打出浜14-15  
滋賀県立芸術劇場 びわ湖ホール 大ホール
- 内容……記念式典  
記念講演 上智大学教授 樋口陽一氏  
コンサート 加藤登紀子
- お問合せは……近江八幡市鷹飼町105-2  
財団法人滋賀県婦人会館内 滋賀県地域婦人団体連合会  
TEL 0748-37-3113  
(ただし、地婦連会員対象の事業につき、入場についてのお問い合わせについては応じかねます)

### 「障害者のつどい」開催のご案内

- 日時……平成10年12月5日(土) 午前10時30分～午後3時
- 場所……アクティ近江八幡(JR近江八幡駅から徒歩7分)
- テーマ……みんなでつなぐ心のネックレス  
—精神障害を理解するつどい—
- 内容……プログラム  
午前「こころ豊かな社会づくり」  
啓発ポスター入賞者の表彰  
ステージ発表：語り、合唱、手話で歌おう、バンド演奏等  
午後 アトラクション：淡海麒麟太鼓  
交流会：レクレーション、ビンゴゲーム  
展示販売コーナー・各種相談コーナー
- 対象……関心のある方は、どなたでも参加いただけます。  
詳しくは滋賀県精神保健福祉協会事務局へお尋ねください。

### 「2000年からの出発 介護保険県民フォーラム」

- 日時……平成10年11月17日(火) 13:00～16:15
- 場所……県立長寿社会福祉センター(草津市)
- 内容……参加対象/高齢者介護、介護保険制度に関心のある人など、どなたでも参加いただけます。  
定員/450人 ◎定員になり次第、申し込みを締め切ります。  
参加費/無料  
参加申込/ハガキまたはFAXに、郵便番号、住所(連絡先)、氏名、電話番号をご記入の上、下記あてにお送り下さい。  
申込締切/平成10年11月10日(火)  
手話通訳・要約筆記/当日は手話通訳、要約筆記があります。ご利用される人は、申し込み時にその旨をお知らせ下さい。  
13:15～14:00 基調講演「いま、なぜ介護保険なのか」龍谷大学社会学部 教授 小田兼三氏  
14:15～16:15 フォーラム「2000年からの出発～介護保険と私たち～」  
◆草津市介護者の会 会長 津田正悦氏  
◆特別養護老人ホーム青浄苑 施設長 富士原要一氏  
◆マキノ町福祉課 参事 岡本傳也氏  
◆株式会社 草津介護センター 代表取締役 村田欣司氏  
コーディネーター  
◆龍谷大学社会学部 教授 小田兼三氏
- お問合せは……滋賀県社会福祉協議会地域福祉部(担当:佐藤)  
〒525-0056 草津市南笠町新池110-1 TEL 077-567-3920 FAX 077-567-3923



### 第17回 滋賀県社会福祉学会 自由研究発表の募集

- 日時……平成11年2月22日(月) 10:00～16:30
- 場所……県立長寿社会福祉センター(草津市)
- 内容……県内社会福祉関係者が日頃から行っている実践活動、研究を発表し合い、それを検討することで、成果の共有を図るとともに、本県社会福祉の向上に資する。  
\*全体プログラム「社会福祉基礎構造改革」  
\*自由研究発表  
・口述発表：高齢者、障害児者、子ども家庭、地域福祉など各分野ごとに研究成果を口述で発表。  
・ポスター発表：研究成果を模造紙大のポスターにまとめ、掲示発表。  
・一般参加者の申込み方法：所定の申込用紙で、平成11年1月22日までに申し込みください。  
・自由研究発表の申込み方法：所定の応募用紙で12月1日までに申し込みください。(応募方法の詳細は事務局にお問い合わせください。)  
・参加費：一般 1,500円 大学・院・短大・専門学校等の学生：1,000円 高校生以下：無料
- お問合せは……滋賀県社会福祉協議会地域福祉部(担当:佐藤)  
〒525-0056 草津市南笠町新池110-1 TEL 077-567-3920 FAX 077-567-3923

# 滋賀県精神保健福祉協会 入会案内について

## ◆入会案内

この協会は、県民、自助団体、地域精神保健福祉関係団体、医療関係団体、教育および行政関係機関・団体等により構成され、精神保健福祉に関する知識を広く県民に普及啓発し、県民一人一人の精神保健に関する正しい理解を深めるとともに、積極的に精神障害者の社会復帰および自立と社会参加を支援していくことにより、障害のある人もない人も共に暮らしよい社会づくり、「こころ豊かな社会」の実現を目指しています。協会の趣旨に賛同いただける皆さんの入会をお待ちしています。

## ◎入会手続

入会申込書に必要事項をご記入の上、協会事務局へ申込みしてください。

会費納入につきましては、協会から「会費振込用紙」を送付させていただきます。

## ◎会費

- 一般会員〔この会の趣旨に賛同する個人または団体〕
  - (1)個人 1,000円(年額) (2)団体 10,000円(年額)
- 賛助会員〔この会の事業を賛助する個人または団体〕
  - (1)個人 1,000円(年額) (2)団体 20,000円(年額)

## ◎会員の皆様へお願い

この協会は、皆様のご理解、ご支援により、2年目を迎えることができました。

これからも協会活動の充実と、会報誌等による情報提供を行っていきたくと考えております。つきましては、協会活動のより一層の充実のため、協会の趣旨に賛同いただける身近な方へ、入会についての働きかけをお願いいたします。

一人でも多くの方に、この協会をご理解いただければと思っております。

☆現在、会費が未納の会員にあっては、早期の納入についてご協力をお願いいたします。

なお、会員の住所、氏名等に変更のある場合は、協会事務局までご連絡ください。

会員数 平成10年10月19日現在

一般会員	個人会員	340名
	団体会員	43団体
賛助会員	個人会員	24名
	団体会員	2団体



洋子

焼きたての パンの温かみや 朝寒し

▼募集しています▲  
引き続き、会報誌の名前を募集しています。また、編集委員会では、皆様のご投稿をお待ちしています。内容は自由です。200字程度にまとめて、住所、氏名、電話番号を明記のうえ、協会事務局までお寄せください。



滋賀県精神保健福祉協会のマークとして使用することになりましたので、お知らせします。

## 編集後記

- ◆遊佐先生の話聞いて、ニューヨーク州の地域住居治療プログラムのきめこまかさには驚かされます。アメリカは、多民族社会なので少数者の権利擁護に敏感だそうです。ホームレスの問題などをはらみながらも、脱入院運動を押し進めることが出来たのは、経済的な要因もさることながら、関係者の強い意志と実行力があつたとのことでした。影響力のある地域支援プログラムの共通点として ①生活技能の向上をはかること ②社会的・環境的支援 ③治療と支援の継続性をあげておられました。大いに参考にしたいところです。
- ◆遊佐先生の現在の肩書きがクリニカル・コーディネーターということですが、日本にはこういう肩書きの人は他にいないと思います。一つの治療システムの中で行き詰まりが生じたときに、コンサルタントの機能を果たすようです。このような役割の重要性が今後ますます認識されていくのではないかと思います。
- ◆今回は洋子さんの俳句です。これまでは内面を見つめすぎて苦しかったが、俳句に出会うことで、外界の描写に専念することによってずいぶん楽になったとのことです。(滋賀県精神神経科診療所協会 上ノ山一寛)